

千年王国を信じる根拠

1. 契約には成就していないものがある。

(1) アブラハム契約

「あなたが見渡しているこの地全部を、永久にあなたとあなたの子孫とに与えよう」(創世記 13 : 1)

- アブラハムが生涯に取得した地はマクペラの洞穴だけ。復活が前提となる契約である。
- アブラハムの子孫・イスラエルは、約束の地を完全に取得したことがない。(支配圏としてはある)

(2) 土地の契約

(3) ダビデ契約

「彼の王座は、とこしえまでも堅く立つ。」(第一歴代誌 17 : 14)

- キリストはまだダビデの王座についていない。

(4) 新しい契約

「彼らの時代の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうだ。——主の御告げ。——わたしはわたしの律法を彼らの中に置き、彼らの心にこれを書きしるす。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。」(エレミヤ 31 : 33)

「その奥義とは、イスラエル人の一部がかたくなになつたのは異邦人の完成のなる時までであり、26 こうして、イスラエルはみな救われる、ということです。こう書かれているとおりです。「救う者がシオンから出て、ヤコブから不敬虔を取り払う。27 これこそ、彼らに与えたわたしの契約である。それは、わたしが彼らの罪を取り除く時である。」(ローマ 11 : 25-27)

- 新しい契約の本来の当事者はイスラエルであり、異邦人は接ぎ木された存在である
- 異邦人の完成の後、イスラエルの民族的救いがもたらされる。
- ユダヤ人の民族的改心、異邦人の完成は、まだ将来のことである。

2. 預言者たちの預言には、まだ成就していないものがある。

3. 黙示録 20 章の預言で、再臨後の千年王国が約束されている。

千年王国とは何か？

1. 旧約聖書で預言されていたメシア的王国のことである。

- (1) ユダヤ人が待望していた王国だったが、イエスを拒否したために、教会時代が挿入された。
- (2) 黙示録 20 章では、年数や更なる詳細が明らかになった。—黙示録 20 章を読む

2. 王国の統治期間は千年間である。(象徴的に解釈することは難しい)

- (1) 黙示録 20 章で、6 回に渡り、具体的な年数が啓示されている。
- (2) 前後で起きる事柄が具体的に示されているため、千年間が限定的な期間であることがわかる。

「わたしを愛し、わたしの命令を守る者には、恵みを千代にまで施す」(出エジプト 20 : 6)
- (3) メシア的王国に関する預言の内容では、一日や千日のような短い期間は想定されていない。

「主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。」(第二ペテロ 3 : 8)

3. 王国の統治形態：専制君主制による統治である *別紙も参照

(1) 全世界の王：イエス・キリスト

(2) イスラエル部門：

A) イスラエル全体の王：復活するダビデ（エレミヤ 30：9）

「わたしのしもべダビデが彼らの王となり、彼ら全体のただひとりの牧者となる。彼らはわたしのために従って歩み、わたしのおきてを守り行ふ。」（エゼキエル 37：24）

B) 12の各部族の王：十二使徒（ルカ 22：28～30）

「まことに、あなたがたに告げます。世が改まって人の子がその栄光の座に着く時、わたしに従って来たあなたがたも十二の座に着いて、イスラエルの十二の部族をさばくのです。」（マタ 19：28）

C) 首長たち（イザヤ 32：1）

(3) 異邦人部門：

A) 教会時代・大艱難時代の聖徒たち（黙示録 20：4-6）

B) 王たち（詩篇 72編）

4. 千年王国を構成する人々

「2 イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。3 見ると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。4 ペトロが口をはさんでイエスに言った。「主よ、わたしたちがここにいるのは、素晴らしいことです。お望みでしたら、わたしがここに仮小屋を三つ建てましょう。一つはあなたのため、一つはモーセのため、もう一つはエリヤのためです。」（マタイ 17：2-4）

(1) イエスの山上での変貌の出来事は、千年王国の様子を予表するものと見ることができる。

*弟子たちは、メシア的王国が到来したと考えた。

*仮小屋を建てて、仮庵の祭りで千年王国を祝おうとした。

「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の主である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る。17 地上の諸氏族のうち、万軍の主である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない。」（ゼカリヤ 14：16-17）

(2) 変貌の山に居た人々が表していたメシア的王国の人々の状態

A) 変貌したイエス：千年王国で統治する王・イエス

B) モーセ：復活する聖徒たち（栄光の体を持っている）

C) エリヤ：携挙される聖徒たち（栄光の体を持っている）

D) 使徒たち：王の支配に服する千年王国の住民たち（古い体を持っている）

千年王国に関連するタイムテーブル

—黙示録 20：1-10 を読む

1. 野獣と偽預言者の裁き、羊と山羊の裁き（マタイ 25章、黙示録 19：20）

2. サタンが底知れぬ所に投げ込まれて、一千年間封印される（黙示録 20：1-3）

3. 第一の復活：

(1) 旧約時代の聖徒たちと（イザ 26：19、ダニ 12：2）、大艱難時代の聖徒たち

(2) 第一の復活は合わせて5段階ある

(1) キリストの復活（初穂）、(2) 教会時代の聖徒、(3) 二人の証人、(4・5) 上述の通り

4. 千年間に渡る王国の統治

5. 千年の終わり：(黙示録 20：7-10)

- (1) サタンがアビスから解き放たれる。
- (2) 一定期間の世界的な反逆が許される。
- (3) 反逆者が天からの火によって滅ぼされ、全て火の池に投げ込まれる (第二の死)

千年王国の特徴

1. 公正・正義・真実による完全な支配 —イザヤ 9章、11章 1~5節、を読む

「一つの王座が恵みによって堅く立てられ、さばきをなし、公正を求め、正義をすみやかに行う者が、ダビデの天幕で、真実をもって、そこにすわる。」(イザヤ 16：5)

- 完全に問題が無くなるわけではないが、常に公正な裁きが速やかに施行される。

2. 住人の特徴：正しく歩み、義を行い、心の中の真実を語る人

「【主】よ。だれが、あなたの幕屋に宿るのでしょうか。だれが、あなたの聖なる山に住むのでしょうか。2 正しく歩み、義を行い、心の中の真実を語る人。3 その人は、舌をもってそしらず、友人に悪を行わず、隣人への非難を口にしない。4 神に捨てられた人を、その目はさげすみ、【主】を恐れる者を尊ぶ。損になっても、立てた誓いは変えない。5 金を貸しても利息を取らず、罪を犯さない人にそむいて、わいろを取らない。このように行う人は、決してゆるがされない。」(詩篇 15：1-5)

3. 普遍的な平和の確立

「終わりの日に、【主】の家の山は、山々の頂に堅く立ち、丘々よりもそびえ立ち、すべての国々がそこに流れて来る。多くの民が来て言う。「さあ、【主】の山、ヤコブの神の家の上ろう。主はご自分の道を、私たちに教えてくださる。私たちはその小道を歩もう。」それは、シオンからみおしえが出、エルサレムから【主】のことばが出るからだ。4 主は国々の間をさばき、多くの国々の民に、判決を下す。彼らはその剣を鋤に、その槍をかまに打ち直し、国は国に向かって剣を上げず、二度と戦いのことを習わない。」(イザヤ 2：2-4)

- エルサレムから出る主の言葉が、あらゆる諸問題を裁く。
- 義の裁き主の支配下において、戦争が不要となり、戦いを学ばなくなる。

4. あらゆる病気や疾患が癒される

「5 そのとき、盲人の目は開かれ、耳しいた者の耳はあけられる。6 そのとき、足なえは鹿のようにとびはね、おしの舌は喜び歌う。荒野に水がわき出し、荒地に川が流れるからだ。」(イザヤ 35：5-6)

- 一世紀のユダヤでも、同じことが起きたが、千年王国における祝福を予表するものだった。
- 千年王国では、病気の癒やしが世界的に生じる

5. 死が激減する。

「20 そこにはもう、数日しか生きない乳飲み子も、寿命の満ちない老人もない。百歳で死ぬ者は若かったとされ、百歳にならないで死ぬ者は、のろわれた者とされる。・・・わたしの民の寿命は、木の寿命に等しく、わたしの選んだ者は、自分の手で作った物を存分に用いることができるからだ。23 彼らはむだに労することもなく、子を産んで、突然その子が死ぬこともない。彼らは主に祝福された者のすえであり、その子孫たちは彼らとともにいるからだ。24 彼らが呼ばないうちに、わたしは答え、彼らがまだ語っているうちに、わたしは聞く。」(イザヤ 62：20-24)

- 寿命の満ちない老人がいない、誰でも百歳までは生きることができる。

「百歳で死ぬ者は、のろわれた罪びととされる」(口語訳)

- 罪を悔い改めない人は、途中で死ぬが、正しく生きる人は生き続ける。(木の寿命に等しく)
- 結果として、死は激減するが、完全には無くならない。※罪が存在し続けるため

6. 個人的な平和と繁栄

「わたしの選んだ者は、自分の手で作った物を存分に用いることができるからだ。23 彼らはむだに労することもなく」(イザヤ 62 : 22-23)

「21 彼らは家を建てて住み、ぶどう畑を作って、その実を食べる。22 彼らが建てて他人が住むことはなく、彼らが植えて他人が食べることはない。」(イザヤ 65 : 21-22)

「地では、山々の頂に穀物が豊かにあり、その実りはレバノンのように豊かで、町の人々は地の青草のように栄えますように。」(詩篇 72 : 16)

- 皆が自分の家を持ってそこに住むことができる。
- 土地の生産性は回復される。※罪による呪いが無くなるか、軽減される。
- 社会からは不正が激減し、あらゆる労働には充実した喜びが伴う。

7. 動物と人間の間の平和

「6 狼は子羊とともに宿り、ひょうは子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜が共にいて、小さい子どもがこれを追っていく。7 雌牛と熊とは共に草をはみ、その子らは共に伏し、獅子も牛のようにわらを食う。8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れした子はまむしの子に手を伸べる。9 わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、そこなわない。【主】を知ることが、海をおおう水のように、地を満たすからである。」(イザヤ 11 : 6-9)

- 動物と人間との間に平和が回復される。互いに攻撃することはない。
- 動物は皆草食となる。

千年王国の後に起きる出来事

1. 白い御座の裁き (黙示録 20 : 11-15)

- (1) 第一の復活に与らなかった全ての死人が復活し、裁かれる。
- (2) 死とハデスは、火の池に投げ込まれる。
- (3) 命の書に書かれていない者は皆、火の池に投げ込まれる。(第二の死)

2. 新天新地 : 永遠の世界が再創造される。(黙示録 21~)

- (1) 新しいエルサレムが天から下ってくる。
- (2) 苦しみが無くなる。
- (3) 都の中と外で、永遠の祝福と永遠の呪いの運命に分けられる。

千年王国に望みを置くことの益

1. 王の中の王としてのキリストの権威に対する信仰と愛が深まる。
2. 今の世界に存在する不正や苦しみを忍耐し、希望を持つことができる。(ダニエル 2,7 章)
3. 王としてのアイデンティティが生まれる
4. 地上で神に忠実に歩む動機が増し加わる。

*王国での権威の度合いは、地上での働きによって評価される。(ミナのたとえ—ルカ 19 : 11-27)

*どんな境遇でも、神の目に大きな働きを行うことができる。(やもめの献金—ルカ 21 : 1-4)